

八雲町地域おこし協力隊通信

新着任隊員紹介



新たに2名の協力隊員が着任しました！
八雲町のみなさまよろしくお願ひいたします



おの つばさ
小野 翔
(商工観光労政課)

1月着任
東京都 西東京市 出身

八雲商工会にて、事業者様の事業承継支援と、商工会業務のサポートを行っております。

野球観戦が趣味で、大の西武ファンです。エスコンフィールドに行くのが今の夢です！

持ち前の「笑顔」と「元気」で関わる全ての人を笑顔にできるように頑張ります！！！



ふくし きよむね
福士 清宗
(住民サービス課)

12月着任
群馬県 前橋市 出身
熊石で空き家活用を行います。
趣味は沢登りなどクライミング
系の登山で、狩猟に興味があり
ます。体力はある方だと思いま
す。自転車で150km休憩なし
で走っても筋肉痛にはなりません。
アウトドアを通じて空き家
活用をしたいと考えています。
よろしくお願ひします！

道南サミットフィールドワーク in 熊石



八雲町熊石地域で 地域密着型研修会を開催

昨年11月29日(水)、熊石地域にある八雲町ふれあい交流センターくまいし館にて、道南で地域活動をしている方々によるフィールドワーク研修会を行いました。

午前中は、熊石の日常を感じてもらいながら、まち全体の広さ、熊石にある色々なものの位置などを知ってもらう目的で「熊石地域まつたりツアー」を行いました。午後からは、テーマ別ワークショップの時間でした。「行政主導から民間主導のまちづくりを実現させるために」というテーマで行ったグループワークでは、「民間主導のまちづくりに向けて」「核になる人材発掘、確保について」「外部人材が地域に馴染む環境整備」を軸に各グループで意見交換をしました。



◀ガイドを務めた窪山隊員
◀フリークショップの様子



▶ フィールドワーク参加者で記念撮影

全体交流では、参加者一人一人が真剣に地域の課題を自分のこととして受け止め、考えを出し合うことで様々な視点での意見が重なり合い学びのあるとても充実した時間になりました。

とても難しいテーマなので、もちろん答えは出ませんでしたが、ここで共有したものは各々の今後につながるものになりました。（窪山）



八雲町地域おこし協力隊 醸造用ブドウ栽培推進員



2023年は改めて、八雲町でワイン用ブドウが実ると確信することのできる年でした。

温暖になりつつある日本において八雲町も例外ではなく、毎年浮き沈みはあるものの気象データはもとより暑い感じる日が続き、肌で気候変動を感じることができた方も今年は多かったのではないでしょうか。

道内を見回すと冬の寒さが厳しく、越冬できるブドウ品種が限られている市町村があり、

それでも良質で素晴らしいワインを生産されている地域があります。

その点、八雲町においてはヤマブドウ系品種以外にも欧州系品種（ワインとして知名度の高いブドウ品種等）を含む様々なワイン用ブドウ品種の栽培が十分可能な気候であるといえます。果樹栽培の豊かな地区と比較するのではなく、もっと視野を広げ見てみることで八雲町の気候がいかに恵まれているかを知ることができます。

今回はそんな私達の活動の一部を紹介します。（茂木琢磨・茂木真夕子）

2023年に徹底した事柄



土壤改良

pH値が非常に低かったため、石灰資材で土壤改良を行った

気象データの分析

過去数十年程の各気象データの分析、有効積算温度・日照時間の上昇傾向を確認

ウィルス病気分析

北海道大学等の研究機関での調査、圃場において様々なウィルス・病気を確認

圃場・苗木管理

草刈（湿度・風通しの管理）、摘穂、芽かき、摘芯、除葉などのブドウ樹の樹勢の管理

防除

これまでの年に数回程度の防除を適正回数へ変更、ベト病や黒とう病など徹底的に抑え込む



徹底した管理により、今年はブドウの糖度は**21.7度 (brix値)**を超えるました。その他、欧州系品種を6種類ほど各5~10数本ずつ試験栽培しています。生育は上々で、ウィルスフリーの苗木を購入して栽培することで、しっかりと育ちます。変えることのできない気候を気にするよりも、気候に人が合わせて栽培方法を熟考していくことに力を入れていきます。



ワインの醸造について



抽出のために潰されたブドウ



発酵前の搾りたて果汁

2023年より、八雲町でとれたブドウを使った極少量でのワインの醸造を開始いたしました。これは八雲町の事業として「初のワイン」となります。製品化を「急ぐ」のではなく、**ワインの製品化を「目指して」**の試験醸造です。

その品種の特徴をつかみ、醸造方法やワインのスタイルを模索することができると期待しています。私たちも醸造研修を行うことができ、発酵管理、温度管理や酵母の活動、成分分析など、とても化学的な勉強をさせていただいております。このような活動を通して、八雲町の気候を上手く反映させたワインの製造、そして研究を続けていきたいと思います。

ワインはそれなりのブドウの量で味がまとめられます。収穫量からみると製品化にはまだほど遠いですが、産まれたての赤ちゃん同様、今後もブドウを丁寧に育て、八雲町が希望を見いだせるようなワインを造りたいと思います。長い目で見なければならない事業ですが、今後とも私たちの活動を温かい目で見て応援していただけると幸いです。